

開講開始年度 2009  
授業コード 33531  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B320 素描Ⅰ

前期 1セメ 1単位 火曜 1

#### 授業概要

造形芸術における「素描」は、言葉を学ぶうえで単語を獲得するような準備段階に相当する。本講義では一般に「素描」と呼ばれる「スケッチ、デッサン、ドローイング」の各々の考え方を学ぶなかで、美術、絵画に関わる基礎的で重要な知識や技能を身に付けることが目的である。また「素描」の講義や実習を通して、対象にたいする「ものの見方」、様々な描画材料の特性、美術の表現と知識の幅広さ、奥深さを習得する。担当教官は設定されたテーマの内容を講義し、実際に各自が制作を行なっていく。

#### 授業計画

- (1) ガイダンス 「美術、ART」の意味／絵画と言葉
- (2) 「素描」とは何か（造形要素）／眼と手
- (3) 「素描」の材料基礎（描くことをいかにして学ぶか）／脳と身体
- (4) 「顔を描く1」記憶された姿（すがた）形（かたち）／似顔絵と肖像画
- (5) 「顔を描く2」プロポーション／東洋と西洋
- (6) 「顔を描く3」輪郭線／鏡と皮膚
- (7) 「顔を描く4」明暗／質感と量塊
- (8) 「顔を描く5」マティエール／艶と奥行き
- (9) 「顔を描く6」肌色／「光」は重い？
- (10) 「顔を描く7」見ることと写すこと
- (11) 「生命形態を描く1」・・・構造と機能
- (12) 「生命形態を描く2」・・・動き
- (13) 「生命形態を描く3」・・・らせんと根源形象
- (14) 「生命形態を描く4」・・・人と作品を結ぶ
- (15) 講評会

課題研究：石膏デッサン 2作品、制作ノートの提出

\*なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 岩田弥富著、素描論、芸大出版会、1982年、その他、授業内で指示する。

評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満  
〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

絵画の入門的内容。初心者でも受講可。欠席、遅刻はしないこと。

- ・ 必要な材料や用具を忘れることのないように。

開講開始年度 2009  
授業コード 33533  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B340 絵画 I

後期 2セメ 2単位 火曜 2

#### 授業概要

本講義では「絵・画」に関わる基礎的な材料の知識や表現技術の特性を理解することが目的である。とりわけ水溶性のメディウムによる絵具を中心に扱う。その理由は、身近な画材であるにも関わらず、その画材特有の使用方法について一般的に熟知されていないからである。水溶性の様々な描画材料の使用方法和マティエールを比較し、絵画表現の基礎的な理論の習熟をはかる。また油彩と水彩、西洋絵画と日本画等の比較から、絵画のタブロー制作についての基本的概念を習得する。完成後には講評会を行い、作品と理論との関係を考察する。

#### 授業計画

- (1) ガイダンス、「絵画」の重層構造と史的背景
- (2) 「絵画」の基本的な材料および技法の解説
- (3) 「水墨画」の基礎
- (4) 「水墨画・制作1」・・・書画について
- (5) 「水墨画・制作2」・・・基本的表現について
- (6) 「水彩画」の基礎 透明水彩、不透明水彩（グワッシュ）
- (7) 「水彩画・制作1」・・・球のバリエーション
- (8) 「水彩画・制作2」・・・基本的表現について
- (9) 「日本画」の基礎
- (10) 「テンペラ」の基礎
- (11) 「油彩画」の基礎
- (12) 「油彩画・制作1」・・・支持体
- (13) 「油彩画・制作2」・・・絵具層
- (14) 絵画の保管、展示について
- (15) 講評会

課題研究：水彩画 2作品、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 岡 鹿之助著、油絵のマティエール、美術出版社、1983年  
グラフィック編集部編、画材全科、グラフィック社、1995年  
その他、授業内で指示する。

評価方法 この授業では以下の2点から評価を行う。

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

必要な材料や用具を忘れることのないように。

- ・ はじめて油彩画を学ぶ者でも受講可。欠席、遅刻はしないこと。

開講開始年度 2009  
授業コード 33534  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B350 絵画 II  
前期 3セメ 2単位 木曜 1

#### 授業概要

本講義は「絵画 I」で学んだ油彩画を実際に制作する方法と、材料の基本的な事項を獲得していくなかで、絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得するものである。独特の美しい絵肌が特色の油彩は、西洋絵画の歴史において重要な位置を占めてきた。油彩は、材料、技法が複雑なため、理解するのに多くの時間を要する一方で、制作の困難さを克服することで、個人の造形意識との関わりを生み出す契機が得られる。また油彩画という西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、「制作学」や美術教育との関わりについても提起していく。

#### 授業計画

- (1) 「絵画」の歴史
- (2) 「絵画」の材料、技法の概説
- (3) 「絵画」の重層構造について
- (4) 絵画制作・「主題」の設定
- (5) 絵画制作・油彩 (1) 制作過程について
- (6) 絵画制作・油彩 (2) エスキース
- (7) 絵画制作・油彩 (3) 下地、preparation について
- (8) 絵画制作・油彩 (4) 下描き
- (9) 絵画制作・油彩 (5) 下層、grisaille について
- (10) 絵画制作・油彩 (6) 中描き 1
- (11) 絵画制作・油彩 (7) 中描き 2
- (12) 絵画制作・油彩 (8) 上層、glisse について
- (13) 絵画制作・油彩 (9) 上描き 1
- (14) 絵画制作・油彩 (10)・仕上げ、完成
- (15) 講評会・・・「油彩画」の伝統的な理論について

課題研究：油彩画 2作品、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

#### 授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 佐藤一郎著、絵画技法入門、美術出版社、1988年  
ラングレ著、油彩画の技術、美術出版社、1974年  
その他、授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
欠席、遅刻はしないこと。
- ・ 素描、絵画 I を履修していることが望ましい。

開講開始年度 2009  
授業コード 34530  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 641540 絵画研究 I

前期 5セメ 2単位 木曜 2

#### 授業概要

本講義は、素描や水彩画、油彩画のみならず、混合技法やコラージュ、モダンテクニックなど、近現代の多様な絵画の表現についての「制作学」を理解していく。例えば印象派、キュビズムやシュルレアリスムなど、19世紀以降の絵画の主題や表現技法を取り扱う。印象派は直裁的な自然との出会いを通して、絵画制作に多くの感動を与えたものである。実際、野外で制作するには、光の角度、風や雨など、様々な環境の外的状況に左右されることとなり、そのような自然に向き合うなかで、独特の充実感を味わうことが可能となる。これら実際の制作を通して、様々な絵画表現とその理論、制作背景を学んでいくなかで、自身に最も適した「絵画」の創作を確立していくことが目的である。

#### 授業計画

- (1) 現代の「絵画」の材料および技法
- (2) リサーチ・ワークブックについて
- (3) 「主題」の設定 現代ドローイング論
- (4) 平版の基本的な技法、理論
- (5) 平版の制作
- (6) 「大作の制作・素描 1」
- (7) 「大作の制作・素描 2」
- (8) 「大作の制作・素描 3」
- (9) 「大作の制作・素描 4」
- (10) 講評会・・・「素描」の現代的材料及び技法、理論について
- (11) 「大作の制作・タブロー 1」
- (12) 「大作の制作・タブロー 2」
- (13) 「大作の制作・タブロー 3」
- (14) 「大作の制作・タブロー 4」
- (15) 講評会・・・現代「絵画」の背景、理論について

課題研究：遠近法箱の制作、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 佐藤一郎著、絵画技法入門、美術出版社、1988年  
マックス・デルナー著、絵画技術体系、美術出版社、1980年  
授業内で指示する。

評価方法 この授業では以下の2点から評価を行う。

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

欠席、遅刻はしないこと。必要な材料や用具を忘れることのないように。

・素描、絵画 I、絵画 II を履修していることが望ましい。

開講開始年度 2009  
授業コード 34531  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 641550 絵画研究 II  
後期 6セメ 2単位 木曜 2

#### 授業概要

本講義は「絵画研究 I」の授業内容をふまえ、一人一人が自身に最も適した絵画理論や個性的な表現を獲得することが目的である。各自がテーマを設定し、大きなサイズの素描や油彩画、混合技法などの多様な表現方法を習得する。また様々な美術表現の動向についても概説を行ない、現代における新たな造形意識（コンセプト）を生み出すうえでの一指針を与える。講義では各自、設定されたテーマを制作し、担当教官は課題ごとに指導し、講評会を行なう。

#### 授業計画

- (1) 現代の「絵画」の材料および技法
- (2) リサーチ・ワークブックについて
- (3) 「主題」の設定
- (4) 「大作の制作・素描 1」
- (5) 「大作の制作・素描 2」
- (6) 「大作の制作・素描 3」
- (7) 「大作の制作・素描 4」
- (8) 講評会・・・「素描」の現代的材料及び技法、理論について
- (9) 「大作の制作・タブロー 1」
- (10) 「大作の制作・タブロー 2」
- (11) 「大作の制作・タブロー 3」
- (12) 「大作の制作・タブロー 4」
- (13) 「大作の制作・タブロー 5」
- (14) 「大作の制作・タブロー 6」
- (15) 講評会・・・現代「絵画」の背景、理論について

課題研究：油彩画 1 作品、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

#### 授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001 年  
その他は配布資料を使用

参考書 佐藤一郎著、絵画技法入門、美術出版社、1988 年  
マックス・デルナー著、絵画技術体系、美術出版社、1980 年  
その他は授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点 3 点満点×15 回、授業内課題の成果点 20 点満点×2 回、レポート課題 15 点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

A. 85 点以上 B. 70 点～84 点 C. 60 点～69 点 D. 50 点～59 点 F. 50 点未満  
〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。  
欠席、遅刻はしないこと。
- ・ 絵画研究 I を履修していることが望ましい。

開講開始年度 2008  
授業コード 33536  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B370 美術解剖学  
後期 3セメ 2単位 水曜 1

#### 授業概要

美術解剖学とは、人体を描く際、必要な基礎知識として得る技能（How to drawing）であり、体表から生体を視察して、身体の特質を知る学問である。本講義では美術解剖学を基底に、人間の「身体」の認識方法や描き方を学び、人間と他の動物との構造、機能の違いを理解していくものである。また、美術を通じて認識される「身体」は、解剖図譜やプラスティネーション（人体標本）など、医学によって提示、伝達される「身体」とどのような相関関係にあるのかという問題も提起したい。

#### 授業計画

- (1) 美術解剖学とは
  - (2) 身体の区分、プロポーションと体型
  - (3) 「骨格系」
  - (4) 「筋系」
  - (5) 「頭部、顔」
  - (6) 「表情」
  - (7) 「知覚」
  - (8) 「腕、手、上肢」の現代的材料及び技法、理論について
  - (9) 「体幹」
  - (10) 「下肢」
  - (11) 「皮膚」
  - (12) 「裸体像・制作1」
  - (13) 「裸体像・制作2」
  - (14) 「裸体像・制作3」
  - (15) 講評会・・・「裸体像」の歴史、理論について
- 課題研究：人体デッサン（解剖模型、骨格模型） 2作品、制作ノートの提出  
\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

#### 授業種別 週間授業

テキスト 高橋彬『入門 美術解剖学』医歯薬出版株式会社、1997年  
その他は配布資料を使用

参考書 中尾喜保著『生体の観察』、メヂカルフレンド社、1976年  
養老孟司、布施英利『解剖の時間』哲学書房、1987年  
その他、授業内で指示する。

評価方法 この授業では以下の2点から評価を行う。

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満  
〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。
- ・ 欠席、遅刻はしないこと。「身体」について幅広く学びたい人、美術が苦手な人の受講も歓迎します。

開講開始年度 2008  
授業コード 33535  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B360 「版」表現  
後期 4セメ 2単位 木曜 4

#### 授業概要

現代社会において「版」は、様々な映像メディアと関わりながら、コミュニケーションの媒体として重要な意義を担っている。これらの機械化された今日の「版」の原型が「版画」であり、本表現は、人間の「身体」と「感性」の発達に深く結びついてきた。講義では、印刷、複製技術を主体とした「刷り絵」とは違う多種多様な「版」表現の手法を学ぶなかで、伝統文化の価値を再認識することが目的である。また「版」表現から生まれた様々な現代の美術作品を学ぶなかで、「版」表現の意味を捉え直していく。

#### 授業計画

- (1) 「版」表現の特性の概説
- (2) 「版」の歴史と多様な文化表現
- (3) 凹版の基本的な技法、理論
- (4) 凹版の制作(1) プレートの加工
- (5) 凹版の制作(2) 下絵、版下の制作、転写
- (6) 凹版の制作(3) エッチング1
- (7) 凹版の制作(4) エッチング2
- (8) 凹版の制作(5) アクアチント1
- (9) 凹版の制作(6) アクアチント2
- (10) 凹版の制作(7) 講評会
- (11) 凸版の基本的な技法、理論
- (12) 凸版の制作(1)
- (13) 凸版の制作(2)
- (14) 凸版の制作(3)
- (15) 現代の「版」表現について

課題研究：版画作品(葉書大) 1作品、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

#### 授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 黒崎 彰著、現代木版画技法、美術出版社、1992年、定価2800円。

視覚デザイン研究所編、銅版画ノート、視覚デザイン研究所、1988年、定価2500円。

参考書 授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況(欠席、遅刻はしないこと)
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満  
(望ましい水準)

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。
- ・ 「版表現」の楽しさを実際に触れて学んでいきます。

開講開始年度 2008  
授業コード 34532  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 641660 映像メディア論  
前期 3セメ 2単位 火曜 3

#### 授業概要

写真や映画、テレビの衛星放送、インターネットの情報が示すように、現代社会において「映像メディア」は生活環境のなかで重要な位置を占めている。それは情報のデジタル化という技術的問題のみならず、「複製」や「時間概念」、私たちの「ものの見方」、身体認識にも大きな影響を与えているからである。そこで本講義では、現代における「映像メディア」の表現を通して、人間の文化と身体の関わりを捉え直すのが目的である。

#### 授業計画

- (1) 映像メディアの歴史と多様な文化表現
- (2) 「像ということ」
- (3) 「遠くの光を引き寄せる」写真の誕生
- (4) 「もうひとつの現実」写真は真実を写しているか？
- (5) 「身体の幻影」ソーマトロープ
- (6) 「動く身体」フェナキスチスコープ
- (7) 「飛び出す身体」ステレオカメラ
- (8) 「寸断される身体」
- (9) 「消滅する身体」
- (10) 「よみがえる身体」
- (11) 「映画の身体」(1)
- (12) 「映画の身体」(2)
- (13) 「映画の身体」(3)
- (14) 「映画の身体」(4)
- (15) 映像文化の未来

課題研究：フェナキスチスコープの制作、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。
- ・ 学芸員資格に関連する必修講義。

開講開始年度 2009  
授業コード 33553  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B540 現代の美術  
後期 6セメ 2単位 火曜 4

#### 授業概要

美術の「感動」とは時代に固定されたものではない。それは日常生活における様々な「ものの見方」とも関連している。本講義では現代における芸術が果たす役割、意義を考えていくうえで、近代以降に確立した「芸術」の制度を、急速な発展をとげた産業社会との関わりから学んでいく。具体的には、近代以降に確立した美術評論、造形概念や様式、美術館や美術学校などの制度、「身体」の認識にたいする変貌と新たなメディア表現（写真、映画、マンガなど）、抽象絵画やインスタレーションなどの造形概念の背景や意味等を学んでいく。

#### 授業計画

- (1) 「現代美術」の基本的な流れ
- (2) 「Craftsman<Artist>Artiste」
- (3) 「印象/表現」
- (4) 「夢、無意識、死」
- (5) 「漫画・メタファー・シンボル」
- (6) 「近代とは何か～写真と映画の誕生」
- (7) 「抽象とは何か～空間と時間への想い」
- (8) 「視覚と認識の変貌」
- (9) 「幼児の絵画における身体・革命」
- (10) 「身体の動きと行為」
- (11) 「A Primal Spirit」
- (12) 「地球大・等身大」
- (13) 「生きている？美術館」
- (14) 「ART 都市・場との関わりとその真相」
- (15) 「現代の芸術の 展望」

課題研究：「現代美術のモナリザ」の制作、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 末永照和監修、「20世紀の美術」、美術出版社  
その他、授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。
- ・ はじめて美術講義を学ぶ者でも受講可。

開講開始年度 2009  
授業コード  
担当教員 新井浩、渡邊晃一  
科目 総合芸術  
後期 7セメ 2単位 火曜 5

#### 授業概要

今日的視点のなかで「芸術」における諸問題を、理論と制作の双方から学んでいく。また様々なメディアと芸術との関わりを通して、造形思考を深めるとともに、社会と文化との系統的な方向性を確立していく。具体的には、建築、数学、科学、音楽や舞踏、パフォーマンス、文学や詩や書、文字の文化との関係をテーマに、芸術を総合的、統合的に捉えていく視点を提起する。

#### 授業計画

第 1 回 授業ガイダンス 授業目的と内容について 実態把握調査アンケート  
第 2 回 「芸術（Fine Art）とは何か。何だったのか。」  
第 3 回 「身体の音色」 絵画と書と音楽  
第 4 回 「身体を計る、測る、図る」 建築、三つの数学文化  
第 5 回 「身体の動きを記録、記憶する」 舞踏譜  
第 6 回 「身体の舞台」 オペラ  
第 7 回 「光の中の身体」 映画  
第 8 回 題材研究 no.1  
第 9 回 題材研究 no.2  
第 10 回 題材研究 no.3  
第 11 回 題材研究 no.4  
第 12 回 題材研究 no.5  
第 13 回 題材研究 no.6  
第 14 回 題材研究 no.7  
第 15 回 授業のまとめ

課題研究：レポート、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 集中講義

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。

自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。

論理的に構成し、適切に説明することができる。

自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・履修に当たっての留意点  
欠席、遅刻はしないこと。
- ・はじめて美術講義を学ぶ者でも受講可。

開講開始年度 2009  
授業コード 34564  
担当教員 10117 渡邊晃一  
科目 641620 芸術企画演習

集中講義 5セメ 2単位

#### 授業概要

「芸術」のもつ意義を、芸術祭の企画運営を通して、理論と実践の双方から学んでいく。社会と文化との関係をテーマに、芸術を総合的、統合的に捉えていく視点を提起することが目的である。

#### 授業計画

第1回 授業ガイダンス 授業目的と内容について 実態把握調査アンケート  
第2回 題材研究 no.1  
第3回 題材研究 no.2  
第4回 題材研究 no.3  
第5回 題材研究 no.4  
第6回 題材研究 no.5  
第7回 題材研究 no.6  
第8回 題材研究 no.7  
第9回 題材研究 no.8  
第10回 題材研究 no.9  
第11回 題材研究 no.10  
第12回 題材研究 no.11  
第13回 題材研究 no.12  
第14回 題材研究 no.13  
第15回 授業のまとめ  
課題研究：レポートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 集中講義

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85点以上 B. 70点～84点 C. 60点～69点 D. 50点～59点 F. 50点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
欠席、遅刻はしないこと。
- ・ はじめて美術講義を学ぶ者でも受講可。

開講開始年度 2009  
授業コード 33557  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 63B580 絵画演習旅行

集中講義 3セメ 2単位 (本年休講)

#### 授業概要

本講義では「素描 I」「絵画 I」で学んだことをふまえて、風景画の制作をする。19 世紀以降、風景画が絵画の主題として重要な位置を占めてきた背景には、描かれる時刻（光の角度）、天候など、直接的な自然との出会い、経験が、多くの感動を与えてきたからだと言える。風景画制作の基礎を学ぶ中で、絵画制作の意義を「自然環境」との関わりから習得していく。

#### 授業計画

- (1) オリエンテーション 近現代の「絵画」の制作背景、理論について
- (2) 視覚の構造と原理
- (3) 、奥行き表現「遠近法」について
- (4) 風景画制作 (1) 写生場所の確認
- (5) 風景画制作 (2) 構図の確認
- (6) 風景画制作 (3) スケッチ 1
- (7) 風景画制作 (4) スケッチ 2
- (8) 風景画制作 (5) 下絵 1
- (9) 風景画制作 (6) 下絵 2
- (10) 風景画制作 (7) 下層
- (11) 風景画制作 (8) 中層
- (12) 風景画制作 (9) 上層
- (13) 風景画制作 (10) 完成
- (14) 展示
- (15) 講評会

#### 授業種別 集中講義

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001 年  
その他は配布資料を使用

参考書 授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点 3 点満点×15 回、授業内課題の成果点 20 点満点×2 回、レポート課題 15 点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

A. 85 点以上 B. 70 点～84 点 C. 60 点～69 点 D. 50 点～59 点 F. 50 点未満

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

#### 備考

- ・ 履修に当たっての留意点  
必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。
- ・ 素描 I、絵画 I、絵画 II を履修していることが望ましい。

開講開始年度 2009  
授業コード 35271  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 661010 卒業研究基礎演習  
授業概要

卒業研究基礎演習では、四年生(7セメ・8セメ)における卒業研究演習 I・II および卒業研究・論文・作品に関わる基礎的・基本的項目の知識・技術の修得に着眼して授業を展開する。この授業では主に絵画、現代美術領域を中心とした卒業論文や卒業制作に向けた基礎資料を獲得するための調べ学習を行ないます。作品や研究方法を身に付けるため、1セメから5セメまでの絵画関連の講義に加えて、現代の絵画を中心とした諸芸術の動向をより詳しく学び、また今までの学類教育および専門教育を振り返ることで、自己の立ち位置を再確認していきます。主な研究分野は、美術の造形性に関する研究、作家研究、絵画と地域社会の関係性に関する研究、教育分野における絵画の教材開発の研究などとし、制作学に関連した知識と技術を身に付けていきます。

[望ましい水準]

(1) 制作課題を十分吟味して、論文の読み込みから制作発表に至るまでの全体的な方向性を見通す能力が身に付いているか。

(2) 他者の発表について批判的に論ずるための基礎的な知識が身に付いているか。

(3) 自らの研究について発表する能力が身に付いているか。

(4) 研究を深めていくための技能を身に付いているか。

授業計画

(1) ガイダンス 卒業研究基礎演習の概要

(2) 卒業研究・制作の基礎とは何か

(3) 制作課題の説明と、修得項目

(4) 制作課題と計画

(5) 制作課題の発表 (1)

(6) 制作課題の発表 (2)

(7) 制作課題の発表 (3)

(8) 制作課題の発表 (4)

(9) 中間報告(制作ノートのまとめ)

(10) 制作課題の発表 (5)

(11) 制作課題の発表 (6)

(12) 制作課題の絵画 (7)

(13) 制作課題の発表 (8)

(14) 作品の仕上げ、完成の基礎

(15) 講評および反省と総括

オフィスアワー・火曜日 16:00~17:30 の間、事前連絡が望ましい。

授業種別 週間授業

テキスト 特に使用しない。必要に応じ資料を用意する。

参考書 使用しない

評価方法 制作過程における学習姿勢、出欠席、提出レポート・作品などを、授業のねらいに記載された望ましい水準に照らして総合的に評価する。

評価基準

A 評価 3項目のすべてにおいて高い水準を獲得した場合

B 評価 3項目中2項目で高い水準を獲得した場合

C 評価 3項目のすべてにおいて望ましい水準を獲得した場合

D 評価 3項目中1項目で望ましい水準に達していない場合

F 評価 4項目中2項目で望ましい水準に達していない場合、

または出席が全授業中の3分の2に満たなかった場合

URL

開講開始年度 2009  
授業コード 35474  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 661020 卒業研究演習 I

#### 授業概要

第6 Semesterで設定した各個人のテーマに基づき、卒業研究基礎演習で学んだ研究手法や収集した資料を活用しながら、卒業制作、論文、制作ノートの作成に取り組む。これまでの研究分野を参考としながら、個別研究をさらに深め、随時、卒業論文の構成を検討するとともに、ステップごとの課題に基づいたゼミ発表やディスカッション、作品、レポートの作成等を通して、各自の卒業研究を深めながら、発展可能性を探っていく。主な研究分野は、絵画の造形的な問題に関する研究、作家の研究、絵画と文化的な社会関係の研究、教育分野における絵画の教材開発の研究などがある。

教員採用試験の準備や就職活動で時間を取られることが多くなるため、授業以外の時間も必要に応じて指導・助言にあたる。

#### 授業計画

- (1) 卒業研究演習の概要
- (2) 研究と発表について
- (3) 絵画の今日的な問題について
- (4) 同上
- (5) 同上
- (6) 同上
- (7) 絵画の教材開発について
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 個別研究の概要について
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の火曜日 16：30～18：00

それ以外の時間はアポイントをとってください。

#### [望ましい水準]

- (1) 卒業制作や卒業論文の基礎的な研究ができ、自らの研究を計画的に進めたか。
  - (2) 報告できるだけの制作や執筆をし、研究を深めていくための技能に深まりがみられたか。
  - (3) 報告後の新たな課題結果に対して、自分なりの解決に努めてきたか。
  - (4) 他者の発表内容について、適切なコメントをするを基に討論するための知識に深まりがみられるか。
- ・他人の発表内容について、ことができる。

開講開始年度 2009

授業コード 35674

担当教員 10117 渡邊 晃一

科目 661030 卒業研究演習Ⅱ

授業概要 第6 Semesterでの卒業研究基礎演習で到達した各個人のテーマを基に、卒業制作や卒業論文に取り組む。討論ではこれまでの研究分野を参考としながら、個別研究をさらに深め、発展可能性を探っていく。主な研究分野は、絵画の造形的な問題に関する研究、作家の研究、絵画と文化的な社会関係の研究、教育分野における絵画の教材開発の研究などがある。

教員採用試験の準備や就職活動で時間を取られることが多くなるため、授業以外の時間も必要に応じて指導・助言にあたる。

授業計画 卒業研究演習の概要

- (2) 研究と発表について
- (3) 絵画の今日的な問題について
- (4) 同上
- (5) 同上
- (6) 同上
- (7) 絵画の教材開発について
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 個別研究の概要について
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の月曜日 12：30～14：00

それ以外の時間はアポイントをとってください。

[望ましい水準]

- (1) 卒業制作や卒業論文の基礎的な研究ができ、自らの研究を論理的に展開できる能力に深まりがみられるか。
- (2) 毎回報告できるだけの制作や執筆をし、研究を深めていくための技能に深まりがみられるか。
- (3) 報告後の新たな課題の解決に努めてきたか。
- (4) 他者の発表を基に討論するための知識に深まりがみられるか。

開講開始年度 2009  
授業コード 35075  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 661040 プレゼンテーション演習

授業概要 卒業論文や卒業制作の発表について、様々な情報や自分の考えかたを整理し、他人に性格に、かつ効果的に伝える技術を身につけることを目的とする。具体的には、ブレインストーム、マインドマップなどを通して自己の思考方法を整理し、実際に PowerPoint などによる論理的、効果的表現等のトレーニングを行うなかでその能力を学ぶ。

【望ましい水準】

1. 計画から総括まで全体を見通す能力が身に付いているか。
2. 自分の意図が伝わるプレゼンテーションを準備、計画することができるか。
3. 自己の卒業論文や卒業制作の内容を整理できたか。
4. プレゼンテーションのための手法（発表空間や時間、使用する材料、機器などを）効果的かつ的確にプレゼンテーションができたか。

注意

第6セメスター終了時まで卒業研究基礎演習を含めて90単位以上を修得していないと受講できません。

授業計画 (1) プレゼンテーションの概要

- (2) ブレインストームによる情報の整理
- (3) プレゼンテーション計画策定
- (4) PowerPoint によるプレゼンテーションの基礎
- (5) プレゼンテーションに向けた実際の活動
- (6) 同上
- (7) 同上
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 実際のプレゼンテーション
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の月曜日 12：30～14：00

それ以外の時間は事前に電子メール等でアポイントをとることが望ましい。

授業種別 実習

テキスト 特に使用しません

参考書 特に使用しません

評価方法 授業への取り組み方

出欠席

提出させた計画ノート・作成したパンフ・実際の発表等

卒業研究基礎演習（6セメ）卒業研究演習1（7セメ）で行ってきた発表への取り組みを加味しながら、望ましい水準として示した3項目に則って採点する。

A 評価 3項目のすべてにおいて高い水準を獲得した場合

B 評価 3項目中2項目で高い水準を獲得した場合

C 評価 3項目のすべてにおいて望ましい水準を獲得した場合

D 評価 3項目中1項目で望ましい水準に達していない場合

F 評価 4項目中2項目で望ましい水準に達していない場合、  
または出席が全授業中の3分の2に満たなかった場合、  
又は卒業研究を発表しなかった場合

URL

備考

1. 授業科目名  
絵画技法特論
2. 単位、履修  
2 5
3. 担当教官名  
非常勤
4. 概要

本講義は「日本画」など、「水彩画」「油彩画」以外の絵画の技法と理論について習得することが目的である。今日一般的な絵画表現である「油彩」は、西洋から日本に新しく移入した「洋画」とも言える。たいして「日本画」は、日本の伝統的な絵画技法から再構築されたタブロー絵画である。「日本画」は一般的に、水干や胡粉、岩絵具などの画材料を、膠と練り合わせて、和紙などの画面に定着させて描かれる。授業ではこのような「日本画」などの特殊な絵画技法に関わる基礎的な理論を修得するなかで、日本の文化についての理解を深めていく。

1. 授業科目名  
現代教養コース『専門演習』
2. 単位、履修  
夜間主 4月28日（月曜6、7限）、3年次 後期月6・7／4年次、前後期月6・73.

1. 授業科目名  
現代教養コース『芸術表現の世界』
2. 単位、履修  
夜間主 後期 2単位 火曜 7

1. 授業科目名  
共通『美術』
2. 単位、履修  
後期 2単位 金曜 2

1. 授業科目名  
『青年と文化』
2. 単位、履修  
後期 2セメ 2単位 水曜 1

開講開始年度 2009

授業コード 34544

担当教員 10117 渡邊 晃一

科目 641720 美術館実習

授業概要 博物館の中でも特に美術館について、その活動の内容と求められる資質についての実際的能力の基礎を理解する。美術館の施設や特徴的な活動等について、見学実習や実務実習を通して研究する。

授業は次の二部からなる。

#### I. 見学実習

写真や現代美術の作品など、美術館の様々な種類・タイプ、またその活動へのアプローチの仕方などに関する問題を、実地研修を通して提供する。

※ 美術館・博物館等に赴きそこで授業を行うことが主となる。そのため、土曜や日曜などに日程を組んで取り組むことになる。

#### II. 実務実習

・福島県文化センター等で開催される美術展の実務実習を行なう。

※ 集合地や日程の詳細、計画変更等について、必要な連絡はメール等にて行うこともある。

授業計画 4月から5月にかけてガイダンスを実施し、授業日程などを告知。

※ 2回のガイダンスに一度も出ない者は受講資格がありません。

授業種別 集中講義

テキスト 特に定めない（必要に応じて適宜指示する。）

参考書 特に定めない（必要に応じて適宜指示する。）

評価方法 見学や実務実習の内容。提出するレポート

履修要件 美術館分野の博物館実習であるので、美術の専門性に直接つながる科目を履修していることが望ましい。

URL

備考

開講開始年度 2009  
授業コード 35271  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 661010 卒業研究基礎演習

授業概要 4年生(7セメ・8セメ)における卒業研究演習Ⅰ・Ⅱおよび卒業研究・論文・作品のための、基礎的・基本的項目の知識・技術の修得に着眼して授業を展開する。この授業では主に絵画に関する1セメから5セメまでの絵画関連の講義に加えて、現代の絵画や諸芸術の動向を歴史的な背景から学習し、卒業論文や卒業制作のための基礎資料とする。各時代の様式や絵画の変遷をより詳しく学ぶなかで、自身の美術に対する立ち位置を再確認していきます。

[望ましい水準]

- (1) 論文の読み込みから発表に至るまで全体を見通す能力が身に付いている
- (2) 他者の発表について批判的に論ずるだけの基礎的知識が身に付いている
- (3) 自らの研究について論理的に発表できるだけの能力が身に付いている
- (4) 研究を深めていくための技能が身に付いている授業計画

授業計画 (1) ガイダンス

- (2) 卒業研究・制作の基礎とは何か
- (3) 制作課題の説明と、修得項目
- (4) 制作課題の絵画(1)
- (5) 制作課題の絵画(2)
- (6) 制作課題の絵画(3)
- (7) 制作課題の絵画(4)
- (8) 制作課題の絵画(5)
- (9) 制作課題の絵画(6)
- (10) 制作課題の絵画(7)
- (11) 制作課題の絵画(8)
- (12) 制作課題の絵画(9)
- (13) 制作課題の絵画(10)
- (14) 作品の仕上げ、完成の基礎
- (15) 講評および反省

オフィスアワー・火曜日 16:00~17:30 の間、事前連絡が望まし

授業種別 週間授業

テキスト 特に使用しない。必要に応じ資料を用意する。

参考書 使用しない

評価方法 提出作品の評価と製作過程における学習姿勢をあわせ総合的に評価する

評価基準

- A:すべての項目で高い水準に達している  
B:一部の項目で高い水準に達している  
C:すべての項目で水準に達している  
D:一部の項目で水準に達している  
F:半分以下の項目で水準に達していない

URL

備考

開講開始年度 2009  
授業コード 35474  
担当教員 10117 渡邊 晃一

科目 661020 卒業研究演習 I

授業概要 第6セメスターでの卒業研究基礎演習で到達した各個人のテーマを基に、卒業制作や卒業論文に取り組む。討論ではこれまでの研究分野を参考としながら、個別研究をさらに深め、発展可能性を探っていく。主な研究分野は、絵画の造形的な問題に関する研究、作家の研究、絵画と文化的な社会関係の研究、教育分野における絵画の教材開発の研究などがある。

教員採用試験の準備や就職活動で時間を取られることが多くなるため、授業以外の時間も必要に応じて指導・助言にあたる。

授業計画 (1) 卒業研究演習の概要

- (2) 研究と発表について
- (3) 絵画の今日的な問題について
- (4) 同上
- (5) 同上
- (6) 同上
- (7) 絵画の教材開発について
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 個別研究の概要について
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の月曜日 12：30～14：00

それ以外の時間はアポイントをとってください。

[望ましい水準]

- (1) 卒業制作や卒業論文の基礎的な研究ができ、自らの研究を論理的に展開できる能力に深まりがみられるか。
- (2) 毎回報告できるだけの制作や執筆をし、研究を深めていくための技能に深まりがみられるか。
- (3) 報告後の新たな課題の解決に努めてきたか。
- (4) 他者の発表を基に討論するための知識に深まりがみられるか。

3

授業計画 各個人のテーマによって異なる場合がでてくるが、大枠は次のように予定し、毎回進捗状況の報告をさせる。

第1～3回 テーマの再確認と年間計画の作成

第4～15回 制作の学生はアイデアの検討や試作の点検・指導

論文の学生は資料収集や下書きの点検・指導

[オフィスアワー] 毎週月曜日 16時30分～18時

授業種別 週間授業

テキスト 各個人のテーマに合わせて指定する

参考書 必要に応じて指示する。

評価方法 [評価の条件] 授業回数の4/5以上出席すること。就職活動等で欠席した時は、授業時間外の指導を受けること。

[評価の方法] 正規試験は行わない。各回のレポート80点、課題に向かう態度10点、出席率10点で評価する。

[評価の規準] 望ましい水準に達しているものは「C」以上の評価となる。

- A. すべての項目において高い水準に達している。
- B. 一部の項目において高い水準に達している。
- C. すべての項目において望ましい水準に達している。
- D. 一部の項目において望ましい水準に達していない。
- F. 多くの項目において望ましい水準に達していない。

URL

備考

開講開始年度 2009  
授業コード 35674  
担当教員 10117 渡邊 晃一

科目 661030 卒業研究演習Ⅱ

授業概要 第6 Semesterでの卒業研究基礎演習で到達した各個人のテーマを基に、卒業制作や卒業論文に取り組む。討論ではこれまでの研究分野を参考としながら、個別研究をさらに深め、発展可能性を探っていく。主な研究分野は、絵画の造形的な問題に関する研究、作家の研究、絵画と文化的な社会関係の研究、教育分野における絵画の教材開発の研究などがある。

教員採用試験の準備や就職活動で時間を取られることが多くなるため、授業以外の時間も必要に応じて指導・助言にあたる。

授業計画 卒業研究演習の概要

- (2) 研究と発表について
- (3) 絵画の今日的な問題について
- (4) 同上
- (5) 同上
- (6) 同上
- (7) 絵画の教材開発について
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 個別研究の概要について
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の月曜日 12：30～14：00

それ以外の時間はアポイントをとってください。

[望ましい水準]

- (1) 卒業制作や卒業論文の基礎的な研究ができ、自らの研究を論理的に展開できる能力に深まりがみられるか。
- (2) 毎回報告できるだけの制作や執筆をし、研究を深めていくための技能に深まりがみられるか。
- (3) 報告後の新たな課題の解決に努めてきたか。
- (4) 他者の発表を基に討論するための知識に深まりがみられるか。

3

授業計画 各個人のテーマによって異なる場合がでてくるが、大枠は次のように予定し、毎回進捗状況の報告をさせる。

第1～3回 テーマの再確認と年間計画の作成

第4～15回 制作の学生はアイデアの検討や試作の点検・指導

論文の学生は資料収集や下書きの点検・指導

[オフィスアワー] 毎週月曜日 16時30分～18時

授業種別 週間授業

テキスト 各個人のテーマに合わせて指定する。

参考書 必要に応じて指示する。

評価方法 [評価の条件] 授業回数の4/5以上出席すること。就職活動等で欠席した時は、授業時間外の指導を受けること。

[評価の方法] 正規試験は行わない。各回のレポート80点、課題に向かう態度10点、出席率10点で評価する。

[評価の規準] 望ましい水準に達しているものは「C」以上の評価となる。

- A. すべての項目において高い水準に達している。
- B. 一部の項目において高い水準に達している。
- C. すべての項目において望ましい水準に達している。
- D. 一部の項目において望ましい水準に達していない。
- F. 多くの項目において望ましい水準に達していない。

URL

備考

開講開始年度 2009  
授業コード 35075  
担当教員 10117 渡邊 晃一  
科目 661040 プレゼンテーション演習

授業概要 卒業論文や卒業制作の発表について、様々な情報や自分の考えかたを整理し、他人に性格に、かつ効果的に伝える技術を身につけることを目的とする。具体的には、ブレインストーム、マインドマップなどを通して自己の思考方法を整理し、実際に PowerPoint などによる論理的、効果的表現等のトレーニングを行うなかでその能力を学ぶ。

【望ましい水準】

1. 計画から総括まで全体を見通す能力が身に付いているか。
2. 自分の意図が伝わるプレゼンテーションを準備、計画することができるか。
3. 自己の卒業論文や卒業制作の内容を整理できたか。
4. プレゼンテーションのための手法（発表空間や時間、使用する材料、機器などを）効果的かつ的確にプレゼンテーションができたか。

注意

第6セメスター終了時まで卒業研究基礎演習を含めて90単位以上を修得していないと受講できません。

授業計画 (1) プレゼンテーションの概要

- (2) ブレインストームによる情報の整理
- (3) プレゼンテーション計画策定
- (4) PowerPoint によるプレゼンテーションの基礎
- (5) プレゼンテーションに向けた実際の活動
- (6) 同上
- (7) 同上
- (8) 同上
- (9) 同上
- (10) 同上
- (11) 実際のプレゼンテーション
- (12) 同上
- (13) 同上
- (14) 同上
- (15) 反省と総括

オフィスアワー：前期授業期間中の月曜日 12：30～14：00

それ以外の時間は事前に電子メール等でアポイントをとることが望ましい。

授業種別 実習

テキスト 特に使用しません

参考書 特に使用しません

評価方法 授業への取り組み方

出欠席

提出させた計画ノート・作成したパンフ・実際の発表等

卒業研究基礎演習（6セメ）卒業研究演習1（7セメ）で行ってきた発表への取り組みを加味しながら、望ましい水準として示した3項目に則って採点する。

A 評価 3項目のすべてにおいて高い水準を獲得した場合

B 評価 3項目中2項目で高い水準を獲得した場合

C 評価 3項目のすべてにおいて望ましい水準を獲得した場合

D 評価 3項目中1項目で望ましい水準に達していない場合

F 評価 4項目中2項目で望ましい水準に達していない場合、  
または出席が全授業中の3分の2に満たなかった場合、  
又は卒業研究を発表しなかった場合

URL

備考

授業コード

担当教員 渡邊 晃一

科目 絵画特論

前期 大学院 2単位 金曜 2

### 授業概要

絵画の近代以降の系譜を検証し、その構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における絵画表現と造形教育の関わりを深く追求する。

### 授業計画

以下の計画にもとづいて各自、設定された題材について考察する。担当教官は課題ごとに指導と講評会を行なう。

- 第1回 「絵画」とは何か(1) ガイダンス・近代以降の絵画制作についての概説
- 第2回 「絵画」とは何か(2) ・絵画の空間、時間の概念を通して
- 第3回 「絵画」とは何か(3) ・絵画の材料と技法を通して
- 第4回 「絵画」とは何か(4) ・絵画教育史・幼児の発達段階との関わりを通して
- 第5回 「絵画」とは何か(5) ・絵画制作史・美術館、美術学校との関わりを通して
- 第6回 現代絵画の技術、理論等についての研究(1) ・絵画の概説
- 第7回 現代絵画の技術、理論等についての研究(2) ・現代絵画の展開
- 第8回 現代絵画の技術、理論等についての研究(3) ・絵画の空間概念
- 第9回 現代絵画の技術、理論等についての研究(4) ・絵画制作の材料と技法
- 第10回 現代絵画の技術、理論等についての研究(5) ・絵画教育の展望
- 第11回 独自の絵画の技術、理論等についての考察(1) ・独自の絵画観の概説
- 第12回 独自の絵画の技術、理論等についての考察(2) ・独自の絵画制作の材料
- 第13回 独自の絵画の技術、理論等についての考察(3) ・独自の絵画制作の技法
- 第14回 独自の絵画の技術、理論等についての考察(4) ・独自の絵画制作の空間概念
- 第15回 独自の絵画の技術、理論等についての考察(5) ・絵画教育の展望

課題研究：「キーワード・ノート」の制作

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考図書・指定図書等

Herberd Read 著、「The Meaning of Art」、Faber and Faver。

Doug Jamieson 著、「Dorow from your Head」、Watson Guptill。

その他、授業内で指示する。

評価方法

- 1、提出作品、レポート課題からの累積評価
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、出席状況(欠席、遅刻はしないこと)

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

・評価基準

優. 80点以上 良. 80点～60点 可. 60点～40点

(望ましい水準)

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。

開講開始年度 2008  
授業コード  
担当教員 渡邊 晃一  
科目 絵画特論演習 I  
通年 大学院 2単位 金曜 3 (本年開講)

#### 授業概要

個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作を行い、自身の制作について深く研究する。絵画制作における支持体、地塗り、絵の具層、ワニス等の絵画の重層構造について再検討を行い、絵画の材料や技術、理論等の構築をはかる。さらに絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。

具体的にテンペラを実制作する中で、材料の基本的な事項を獲得し、絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、「制作学」や美術教育との関わりについても提起していく。

#### 授業計画

- (1) 「絵画」制作についての概説
- (2) テンペラによる絵画の材料、技術、理論等の研究
- (3) テンペラの重層構造について
- (4) 絵画制作・「主題」の設定
- (5) 絵画制作・テンペラ (1) 制作過程について
- (6) 絵画制作・テンペラ (2) エスキース
- (7) 絵画制作・テンペラ (3) 下地、preparation について
- (8) 絵画制作・テンペラ (4) 下描き
- (9) 絵画制作・テンペラ (5) 下層、grisaille について
- (10) 絵画制作・テンペラ (6) 中描き 1
- (11) 絵画制作・テンペラ (7) 中描き 2
- (12) 絵画制作・テンペラ (8) 上層、glisse について
- (13) 絵画制作・テンペラ (9) 上描き 1
- (14) 絵画制作・テンペラ (10)・仕上げ、完成
- (15) 講評会・・・テンペラの現代的な理論について

課題研究：油彩画 2作品、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 ラングレ著、絵画技法入門、美術出版社、1988年、定価 2200円。

A.P.Laurie 著「The painter's Methods and Materials」Dover

その他、授業内で指示する。

#### 評価方法

- 1、出席状況 (欠席、遅刻はしないこと)
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点 3点満点×15回、授業内課題の成果点 20点満点×2回、レポート課題 15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

#### 評価基準

優. 80点以上 良. 80点～60点 可. 60点～40点

(望ましい水準)

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイディアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。

- ・ 絵画研究 I、II を履修していることが望ましい。

開講開始年度 2008  
授業コード  
担当教員 渡邊 晃一  
科目 絵画特論演習Ⅱ  
通年 大学院 2単位 金曜 3 (本年休講)

#### 授業概要

個別に設定したテーマに沿って、「版表現」の制作を行い、自身の制作について深く探求していく。前期は、凹凸平孔版おける多様な支持体の中から、自身の制作を行ない、インク、刷り、展示等について再検討を行っていく。後期は、英国や米国の Printmaking の授業研究と重ね、Box Art や Book Art の制作を行なう。通じて「版表現」に関わる材料や技術、理論等の構築をはかる。さらに教材研究の新たな可能性についても検討する。

#### 授業計画

- (1) 「版表現」の特性の概説
- (2) 「版表現」の歴史と多様な表現
- (3) 「版表現」の材料、技術、理論等の研究
- (4) 版の制作 (1) 下絵、版下の制作
- (5) 版の制作 (2)
- (6) 版の制作 (3)
- (7) 版の制作 (4)
- (8) 版の制作 (5) 講評会
- (9) Box Art、Book Art の歴史と多様な表現
- (10) Box Art、Book Art の材料、技術、理論等の研究
- (11) Box Art、Book Art の制作 (1)
- (12) Box Art、Book Art の制作 (2)
- (13) Box Art、Book Art の制作 (3)
- (14) Box Art、Book Art の制作 (4)
- (15) 展示、講評会

課題研究：版画作品（葉書大）、制作ノートの提出

\* なお受講生の実態に合わせて、内容や計画を変更する場合があります。

授業種別 週間授業

テキスト 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年  
その他は配布資料を使用

参考書 末永照和監修、「20世紀の美術」、美術出版社  
その他、授業内で指示する。評価方法

- 1、出席状況（欠席、遅刻はしないこと）
- 2、毎回の授業への参加態度と授業内の成果からの総合的評価
- 3、提出作品、レポート課題からの累積評価

具体的には、参加態度、成果点3点満点×15回、授業内課題の成果点20点満点×2回、レポート課題15点。これらの総合点を下記の評価基準に基づき、評価する。

評価基準

優. 80点以上 良. 80点～60点 可. 60点～40点

〈望ましい水準〉

- ・ 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- ・ 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- ・ 論理的に構成し、適切に説明することができる。
- ・ 自他の考えや表現の良さを認め、理解し合い、お互いのアイデアを発展させることができる。

備考 ・履修に当たっての留意点

必要な材料や用具を忘れることのないように。欠席、遅刻はしないこと。

- ・ 絵画研究 I、II を履修していることが望ましい。

【開講年度】	2009 年度（大学院）
【科目】	現代文化と絵画特論
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・ <b>授業の概要</b>          絵画の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術科教育の視点からその構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における絵画表現と造形教育の関わりを深く追求する。具体的には、個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行い、絵画制作の主題、絵画の重層構造、技法や歴史的な問題について、現代の視点から再検討を行う。また、絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。</p> <p>・ <b>授業の到達目標及びテーマ</b>          院生自身の絵画に関する研究活動を美術制作学、美術科教育の視点から支援し、深化させるもの。個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作理論を今日的視点から再検討を行う。また個別に教材研究の新たな可能性についても検討する。</p>
【望ましい水準】	1 近代絵画の展開について理解している。 2 絵画表現と造形教育との関係について理解している 3 絵画の主題や重層構造、技法について理解している。
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第1回： 現代における絵画制作についての概説          ・・・・絵画の歴史の概説</p> <p>第2回： 「現代絵画」研究（1）          ・・・・絵画における空間（場）、時間（現代性）との関係</p> <p>第3回： 「現代絵画」研究（2）          ・・・・古今東西の絵画の材料と技法との関連について</p> <p>第4回： 「現代絵画」研究（3）          ・・・・絵画教育史・制作と個人の発達段階</p> <p>第5回： 「現代絵画」研究（4）          ・・・・絵画と美術館、美術学校との関わり</p> <p>第6回： 現代絵画の技術、理論等についての研究（1）          ・・・・絵画における記録と記憶について</p> <p>第7回： 現代絵画の技術、理論等についての研究（2）          ・・・・現代における技術と材料の文化</p> <p>第8回： 現代絵画の技術、理論等についての研究（3）          ・・・・映像メディアと空間概念</p> <p>第9回： 現代絵画の技術、理論等についての研究（4）          ・・・・美術展と地域づくり</p> <p>第10回： 現代絵画の技術、理論等についての研究（5）          ・・・・現代性と地域文化の展望          会津芸術祭、ビエンナーレ、トリエンナーレの諸相</p> <p>第11回： 独自の絵画の技術、理論等についての考察（1）          ・・・・現代絵画の概説</p> <p>第12回： 独自の絵画の技術、理論等についての考察（2）          ・・・・絵画制作の空間概念・「場」の問題</p> <p>第13回： 独自の絵画の技術、理論等についての考察（3）          ・・・・絵画制作の材料・地域産業との関係</p> <p>第14回： 独自の絵画の技術、理論等についての考察（4）          ・・・・絵画制作の技法・新映像メディア論</p> <p>第15回： 独自の絵画の技術、理論等についての考察（5）          ・・・・美術教育と地域創造の展望          まとめ、授業レポートの作成、アンケート</p>

【教材・教科書】	Paul Duro , Michael Greenhalgh , <i>Essential Art History</i> Bloomsbury Pub Ltd; New Ed, 1994 その他、プリント・作品集・スライドなど授業のたびに自作の資料を配布する。
【参考図書】	Herberd Read 著、「The Meaning of Art」、Faber and Faver Doug Jamieson 著、「Draw from your Head」、Watson Guptill その他、随時紹介する。
【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	絵画の制作学を基盤にした理論的な背景について、普段から絵画の歴史や技法に関わる資料収集を積極的におこなうこと
【成績評価の方法】	受講態度，出席状況，レポートの成績を総合的に評価する。 提出されたレポートでは到達目標及びテーマのねらいと望ましい水準に照らして評価する。(課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%)
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12：10～12：50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	毎回の授業の終わりに質問と感想を記述する。優れた内容は成績評価に加算。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2009 年度（大学院）	
【科目】	現代文化と絵画特論演習 I	
【担当教員】	渡邊 晃一	
【授業概要とねらい】	<p>・ <b>授業の概要</b>  絵画および現代美術に関して、個別に設定したテーマに沿って制作を行い、自身の制作について深く研究する。具体的には、テンペラを実制作する中で、材料の基本的な事項を獲得し、絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、「制作学」や美術教育との関わりについても提起していく。</p> <p>・ <b>授業の到達目標及びテーマ</b>  院生自身の絵画に関する研究活動を美術制作学、美術科教育の視点から支援し、深化させるもの。個別に設定したテーマに沿って、絵画の実技制作（特にタブローについて）を今日的視点から再検討を行う。また個別に教材研究の新たな可能性についても検討する。</p>	
【望ましい水準】	1 絵画のテーマ設定に関して詳細な分析がなされている。 2 実制作にあたって、材料や制作過程など、入念な検討がなされている。 3 造形手法に練度があり、斬新な提案がなされている。	
【授業計画】	本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。 第1回：「絵画」制作についての概説 授業概要とねらいの説明 第2回：テンペラによる絵画の材料、技術、理論等の研究 現代絵画の主題設定 第3回：テンペラの重層構造 現代絵画の材料、技法 第4回：絵画制作・「主題」の設定 絵画の主題について 第5回：絵画制作・テンペラ（1） 制作過程の概説 第6回：絵画制作・テンペラ（2） エスキース 第7回：絵画制作・テンペラ（3） 下地、preparation 第8回：絵画制作・テンペラ（4） 下描き 第9回：絵画制作・テンペラ（5） 下層、grisaille 第10回：絵画制作・テンペラ（6） 下描きの検討 第11回：絵画制作・テンペラ（7） 中描きの検討 第12回：絵画制作・テンペラ（8） 上層、glisse 第13回：絵画制作・テンペラ（9） 上描きの検討 第14回：絵画制作・テンペラ（10） 仕上げ、完成 第15回：講評会 作品鑑賞および評価（前）	第16回：絵画制作・「主題」の設定 自己のテーマの設定 ブレインストーム 第17回：絵画制作・テンペラ（1） 制作過程について 第18回：絵画制作・テンペラ（2） エスキース 第19回：絵画制作・テンペラ（3） 下地、preparation 第20回：絵画制作・テンペラ（4） 下描き 第21回：絵画制作・テンペラ（5） 下層、grisaille 第22回：絵画制作・テンペラ（6） 中描き、ハッチングについて 第23回：絵画制作・テンペラ（7） 中描き、インパストについて 第24回：絵画制作・テンペラ（8） 上層、グレイズについて 第25回：絵画制作・テンペラ（9） 上描き1、ワニスについて 第26回：絵画制作・テンペラ（10） 仕上げ、完成 第27回：絵画制作・テンペラ（10） 額装について 第28回：講評会 展示の方法について 第29回：発表会 作品解説 第30回：まとめ 作品鑑賞および評価（最終評価） 授業レポートの作成、アンケート 課題研究：作品、制作ノートの提出
【教材・教科書】	谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年 その他、プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。	
【参考図書】	ラングレ著、絵画技法入門、美術出版社、1988年、定価2200円。 A.P.Laurie 著「The painter's Methods and Materials」Dover その他、随時紹介する。	

【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	絵画の制作学を基盤にした実制作について、普段から自身の制作に関わる資料収集を積極的におこなうこと。
【成績評価の方法】	受講態度，出席状況，レポートの成績を総合的に評価する。 提出されたレポートでは到達目標及びテーマのねらいと望ましい水準に照らして評価する。（課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%）
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12：10～12：50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	毎回の授業の終わりに質問と感想を記述する。優れた内容は成績評価に加算。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2009 年度（大学院）
【科目】	プロジェクト実践研究 I
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・ <b>授業の概要</b>  本授業は、主として絵画領域における修了研究でプロジェクト研究を選択した院生が受講するもの。美術制作学、美術科教育の主指導教員の指導のもとで、ワークショップ、地域行事への参画など、あらかじめ院生自身が学外での活動を申請し、院生自らの研究テーマに沿って、プロジェクトなどを構想し、準備を行い、実践、報告する。主として制作上の調査や構想の準備、中間報告などを内容とする。</p> <p>・ <b>授業の到達目標及びテーマ</b>  院生自身の絵画に関する研究活動を美術制作学、美術科教育の視点から支援し、深化させるもの。個別に設定したテーマに沿って、計画書、事後の報告書を提出しする。美術制作学、美術科教育の視点をふまえた教員の指導にもとづく探究を行ない、深化の状況で単位を認定する。</p>
【望ましい水準】	1 プロジェクトの構想が適正である。 2 資料等の分析が丁寧に行われている。 3 報告が適正にまとまっている。
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。公私の教育機関や、美術館、文化センター等の自治体組織と連携するなどして、美術研究に基づいて地域の美術教育や文化活動を支援するための方策を探る。</p> <p>第1回 絵画におけるオリエンテーション  ・ ・ ・ プロジェクトに関するガイダンス</p> <p>第2回 絵画領域における計画の立案  ・ ・ ・ 現地調査、地域づくりの支援活動について</p> <p>第3回 資料等の収集  ・ ・ ・ 現地の歴史・風土・教育実践等の資料収集</p> <p>第4回 実践構想の確定  ・ ・ ・ 絵画制作及び作品設置、地域支援、教育普及活動等の構想</p> <p>第5回 準備（1）構想と計画  ・ ・ ・ 先行研究、事業をより発展・充実させる方策について  収集した資料をもとにディスカッションをおこなう</p> <p>第6回 準備（2）計画書の作成  ・ ・ ・ 普及活動や地域住民への啓発に関する方策について  ディスカッションを通して実践的な企画運営を検討する</p> <p>第7回 中間報告書の作成  ・ ・ ・ 定められた書式にまとめ、全体像を築きあげる</p> <p>第8回 提出  ・ ・ ・ まとめと実践研究Ⅱにつなげるための方策</p>
【教材・教科書】	特に指定しない。 プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。
【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001年 その他、随時紹介する。
【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	各地域における事例研究等の資料収集を積極的におこなうこと
【成績評価の方法】	基本的には報告書の内容や発表方法のレベル、プロジェクトを設定した着眼点や課題解決の手立て、成果など、提出された資料をもとに到達目標に照らして評価する。その他、研究への姿勢、出席状況も加味しながら総合的に評価する。 （課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%）
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。

【オフィスアワー】	金曜日 12 : 10～12 : 50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第 1 回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	毎回の授業の終わりに質問と感想を記述する。優れた内容は成績評価に加算。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2010年度（大学院）
【科目】	プロジェクト実践研究 II
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・<b>授業の概要</b></p> <p>本授業は、主として絵画における修士研究でプロジェクト研究を選択した院生が受講する。美術制作学、美術科教育の視点をふまえた指導教員の指導のもとで、院生自らの研究テーマ、地域などの持つ課題に即してプロジェクトなどを構想し、準備、実践、報告を行う。主として「プロジェクト実践研究 I」をもとにした実践、記録の整理、事後調査、報告などを内容とする。</p> <p>・<b>授業の到達目標及びテーマ</b></p> <p>院生自身の絵画に関する研究活動を美術制作学、美術科教育の視点から支援し、深化させるもの。個別に設定したテーマに沿って、計画書、事後の報告書を提出しする。美術制作学、美術科教育の視点をふまえた教員の指導にもとづく探究を行ない、深化の状況で単位を認定する。</p>
【望ましい水準】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プロジェクトの実践が適正である。</li> <li>2 記録、資料等が丁寧にまとめられている。</li> <li>3 報告書の総括、課題にたいする反省が的確である。</li> </ol>
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。公私の教育機関や、美術館、文化センター等の自治体組織と連携するなどして、美術研究に基づいて地域の美術教育や文化活動を支援するための方策を探る。</p> <p>第1回：実践（1）現地での準備 ・地域づくり支援事業の概括、助成金申請について</p> <p>第2回：実践（2）現地での実践 ・作品と設置環境、支援団体について</p> <p>第3回：実践（3）現地での事後処理 ・作品の搬入出、現地での意見集約などについて</p> <p>第4回：実践記録・資料の整理 ・写真撮影、レポート資料の作成</p> <p>第5回：事後調査（1）アンケート・インタビュー ・教育普及活動および地域住民、参加者への成果アンケート</p> <p>第6回：事後調査（2）アンケート・インタビューの考察 ・アンケートの集約、記録資料の整理</p> <p>第7回：報告書のまとめ ・報告書の作成、実践報告書のまとめ</p> <p>第8回：絵画領域の報告会・プレゼンテーション ・情報機器の操作とプレゼンテーションの研究</p>
【教材・教科書】	<p>特に指定しない。</p> <p>プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。</p>
【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001年 その他、随時紹介する。
【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	各地域における事例研究等の資料収集を積極的におこなうこと
【成績評価の方法】	<p>報告書の内容や発表方法のレベル、プロジェクト設定の着眼点や課題解決の手立て、課題に対する成果など、提出された資料をもとに到達目標に照らして評価する。その他、研究への姿勢、出席状況も加味しながら総合的に評価する。</p> <p>（課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%）</p>
【成績評価の基準】	<p>優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。</p> <p>良：望ましい水準すべてにおいて優れている。</p> <p>可：望ましい水準のすべてを満たしている。</p> <p>不可：望ましい水準に達していない項目がある。</p>
【オフィスアワー】	<p>金曜日 12：10～12：50</p> <p>この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。</p>

【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	毎回の授業の終わりに質問と感想を記述する。優れた内容は成績評価に加算。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2009年度（大学院）
【科目】	課題研究Ⅰ
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・<b>授業の概要</b> 美術制作学、美術科教育の視点に基づき院生の研究計画、問題意識、興味関心、さらには地域の課題などを追究しながら、修了研究のテーマや研究方法を決定する。また、大学院における一般的な研究のあり方やカリキュラムの組み立て方、過去の絵画の先行研究の調査等を行いながら、院生としてのライフスタイルを組み立てる。領域や専門内容に応じて、文献講読や事例研究、フィールドワークを行い、問題意識や研究テーマを確固たるものにしてゆく。</p> <p>・<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 絵画および現代美術に関して、各自でテーマを設定し、課題を解決する方策を考察していく。教員は問題意識の明確化、地域の課題認識、テーマの決定に際し、美術制作学、美術科教育の視点に基づき指導を行なう。</p>
【望ましい水準】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究計画が適切である。</li> <li>2 文献や事例の分析が的確である。</li> <li>3 幅広い知識を有し、有機的に活用できる。</li> </ol>
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第1回 絵画領域における修了研究のガイダンス、カリキュラムについて 絵画表現の修了研究に関するオリエンテーション</p> <p>第2回 大学院における研究の進め方 資料収集、研究見通しの立て方など学習する</p> <p>第3回 絵画表現領域における研究計画及び問題意識の確認 テーマ設定、先行研究、研究計画等について事例から学習する</p> <p>第4回 研究テーマ素案の報告（1） 作品制作と論文執筆の方向について見通しを立て報告する</p> <p>第5回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（1） 論文、書籍等著作物を中心に研究をおこなう上での基礎を修得する</p> <p>第6回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（2） 絵画の検証を中心に応用的な研究を指定する</p> <p>第7回 資料収集（1） 写真、先行作品等の資料収集の方法を具体的に学習する</p> <p>第8回 資料収集（2） 参考文献等の論点整理の方法について資料を通して学習する</p> <p>第9回 研究テーマ素案の報告（2）第2次 学習をもとに作品制作と論文の基本設計について報告する</p> <p>第10回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（3） 作品制作と併行し論点補強に必要な関連分野の資料収集の展開</p> <p>第11回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（4） 作品制作と併行し論点補強に必要な関連分野の分析と総括</p> <p>第12回 研究テーマの決定（副指導教員選定の準備） 学習をもとに研究領域を定め研究テーマを決定する</p> <p>第13回 研究テーマ報告、作品発表の準備 情報機器等を活用しプレゼンテーションの準備をおこなう</p> <p>第14回 研究テーマ報告 情報機器等を活用しプレゼンテーションをおこなう</p> <p>第15回 テーマに基づく修了研究の構想（副指導教員の決定） 報告で得られた課題をもとに修了研究の構想を練る</p>
【教材・教科書】	特に指定しない。プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。
【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001年。その他、随時紹介する。

【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	論文、書籍の資料収集や彫刻作品の研究等を日頃から積極的におこなうこと
【成績評価の方法】	基本的には課題設定の着眼点や課題解決の手立て、課題にたいする成果など、提出された資料をもとに到達目標に照らして評価する。その他、研究への姿勢、出席状況も加味しながら総合的に評価する。 (課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%)
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12：10～12：50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	課題発表の前に指導教員へ課題資料を提出すること。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2009 年度（大学院）
【科目】	専門演習 I
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・授業の概要  主指導教員のもとで、美術制作学、美術科教育の視点から、研究計画や地域の課題などの追究を経て決定した修了研究を深化させる。主たる内容は絵画領域の特性に応じた文献講読や事例研究、フィールドワークとし、他領域との研究交流を行うことにより、他領域との連関の可能性を探りながら「コーディネート力」の伸長を期す。また「修了研究中間報告会」に向けて、それまでの研究を整理し、より広範な理解を得られるようプレゼンテーションを構築する。</p> <p>・授業の到達目標及びテーマ  絵画および現代美術に関するテーマに基づいて、美術制作学、美術科教育の視点から、各自で研究の展開、中間報告会の組み立てを行なう。問題意識の明確化、テーマの深化に向けて、教員は指導を行なう。</p>
【望ましい水準】	1 修了研究を深化させる方策が適切である。 2 文献、事例研究、フィールドワークを有効に活用できる 3 幅広い視点から研究を構築できる。
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第1回 絵画領域における研究テーマ及び修了研究方法の確認、追究 修了研究の主題設定と研究の方向性について</p> <p>第2回 修了研究の展開計画 先行研究をもとに今後の展開（地域貢献や教育普及等）</p> <p>第3回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（1） 地域研究をもとに絵画に関する論文等の資料を活かした研究を行う</p> <p>第4回 研究指導又は事例研究・フィールドワーク（2） 地域研究を修了研究に結びつけることを目標に絵画作品の研究を行う</p> <p>第5回 学際的研究と研究交流（1）領域内交流 美学、美術史、博物館学など、専攻領域内の交流と連携を模索</p> <p>第6回 学際的研究と研究交流（2）専攻内交流 音楽、舞台学、教科教育学など、諸領域との幅広い交流を模索</p> <p>第7回 学際的研究と研究交流（3）専攻外交流 心理学、政策学、表象文化論など、諸研究領域との交流を模索</p> <p>第8回 研究内容の中間まとめ 研究成果と今後の見通しを考え、中間まとめを行なう</p> <p>第9回 中間報告会の構想 修了研究の整理と論理構築</p> <p>第10回 プレゼンテーションの作成（1） レジュメを整理し、基礎的なコーディネートの方法を考察する</p> <p>第11回 プレゼンテーションの作成（2） 情報機器を活用したプレゼンテーションの準備</p> <p>第12回 プレゼンテーションの作成（3） プレゼンテーション資料の整理と時間設定</p> <p>第13回 中間報告のリハーサル 他の院生と協力しあい中間報告にむけたチェックを行なう</p> <p>第14回 中間報告 院生の運営のもとで中間報告会を運営する</p> <p>第15回 事後反省 中間報告会で得た課題をもとに今後の反省を行なう</p>
【教材・教科書】	特に指定しない。
【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001年 その他、講義内において随時紹介する。
【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>

【授業以外の学習】	論文，書籍の資料収集や彫刻作品の研究等を日頃から積極的におこなうこと 修了研究を社会還元することを念頭に社会の動きに幅広く目を向けること
【成績評価の方法】	課題にたいする研究成果、報告書，報告会の成績、その他、研究への姿勢、出席状況も 加味しながら総合的に評価する。 (課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%)
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12：10～12：50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	課題発表の前に指導教員へ課題資料を提出すること。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2010 年度（大学院）
【科目】	現代文化と絵画特論演習 II
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・ <b>授業の概要</b> 個別に設定したテーマに沿って、「版表現」の制作を行い、美術制作学、美術科教育の視点をふまえつつ、自身の制作について深く探求していく。前期は、凹凸平孔版おける多様な支持体の中から、自身の制作を行ない、インク、刷り、展示等について再検討を行っていく。後期は、現代、英国や米国等の Print-making の授業研究と重ね、Box Art や Book Art の制作を行なう。通じて「版表現」に関わる材料や技術、理論の構築をはかる。</p> <p>・ <b>授業の到達目標及びテーマ</b> 絵画および現代美術に関する個別に設定したテーマに即して、研究活動を行なうことを支援し、深化させるもの。個別に設定したテーマに沿って、絵画の実技制作（特に版表現について）を今日的視点から再検討を行う。また個別に美術制作学、美術科教育の教材研究の新たな可能性についても検討する。</p>
【望ましい水準】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 絵画のテーマ設定に関して詳細な分析がなされている。</li> <li>2 実制作にあたって、材料や制作過程など、入念な検討がなされている。</li> <li>3 造形手法に練度があり、斬新な提案がなされている。</li> </ol>
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第1回：「版表現」の特性の概説 ・ オリエンテーション、「版表現」の歴史の概説</p> <p>第2回：「版表現」の歴史と多様な表現 ・ 「版表現」における空間（場）、時間（現代性）との関係</p> <p>第3回：「版表現」の材料、技術、理論等の研究 ・ 古今東西の「版表現」の材料と技法との関連について</p> <p>第4回：現代の「版」の制作（1） ・ 「版」とは何か</p> <p>第5回：現代の「版」の制作（2） ・ 下絵、エスキース</p> <p>第6回：現代の「版」の制作（3） ・ 「転写」について</p> <p>第7回：現代の「版」の制作（4） ・ 「版」の制作について</p> <p>第8回：現代の「版」の制作（5） ・ 「試し刷り」について</p> <p>第9回：現代の「版」の制作（6） ・ 「本刷り」について</p> <p>第10回：講評会 ・ 作品鑑賞と評価</p> <p>第11回：作品発表の歴史と多様な表現 ・ 「版表現」の現代的な理論について</p> <p>第12回：作品発表の理論研究（1） ・ 額装について</p> <p>第13回：作品発表の理論研究（2） ・ 展示の方法について</p> <p>第14回：作品発表の理論研究（3） ・ 作品解説</p> <p>第15回：展示、講評会 ・ 作品鑑賞および評価（最終評価）</p> <p>課題研究：作品、制作ノートの提出</p>
【教材・教科書】	谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001年 その他、プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。
【参考図書】	末永照和監修、「20世紀の美術」、美術出版社。 その他、随時紹介する。

【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	制作学を基盤にした「版表現」の資料収集や実制作を普段から積極的におこなうこと
【成績評価の方法】	受講態度，出席状況，レポートの成績を総合的に評価する。 提出されたレポートでは到達目標及びテーマのねらいと望ましい水準に照らして評価する。（課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%）
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12：10～12：50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	毎回の授業の終わりに質問と感想を記述する。優れた内容は成績評価に加算。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2010 年度（大学院）
【科目】	課題研究 II
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・ <b>授業の概要</b>          主指導教員のもとで、美術制作学、美術科教育の視点をふまえ、研究計画や地域の課題などの追究を経て決定した修了研究を深化させる。主たる内容は絵画領域の特性に応じた文献講読や事例研究、フィールドワークとし、他領域との研究交流を行うことにより、他領域との連関の可能性を探りながら「コーディネート力」の伸長を期す。また「修了研究報告会」に向けて、それまでの研究を整理し、より広範な理解を得られるようプレゼンテーションを構築する。</p> <p>・ <b>授業の到達目標及びテーマ</b>          絵画および現代美術に関して、各自でテーマを設定し、テーマに基づく研究の専門的展開、他の領域との研究交流による対象化を行なう。教員は課題解決の方法として、問題意識の明確化、地域の課題認識、テーマの決定に際し、美術制作学、美術科教育の視点をふまえ、指導を行なう。</p>
【望ましい水準】	1 研究計画が適切に遂行されている。 2 文献や事例の分析が的確であり、研究交流の結果が活かされている。 3 幅広い知識を有し、有機的に活用できる。
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第 1 回：絵画領域における研究テーマ及び修了研究方法の確認、追究          ・ 絵画表現の修了研究に関するオリエンテーション</p> <p>第 2 回：修了研究の展開計画          ・ これまでの研究を深化させる今後の展開を計画する</p> <p>第 3 回：研究指導又は事例研究・フィールドワーク（1）福島市等          ・ 資料収集、研究資料に関する見通しを立てる</p> <p>第 4 回：研究指導又は事例研究・フィールドワーク（2）会津等          ・ 実地研修をもとに、研究を深化させる</p> <p>第 5 回：他領域との研究交流（1）導入          ・ 幅広い研究諸領域との交流を通して、研究深化に必要な知見を得る</p> <p>第 6 回：他領域との研究交流（2）展開          ・ 研究交流を通し研究をフィードバックする</p> <p>第 7 回：他領域との研究交流（3）発展          ・ 関連領域の資料分析を深化させ、絵画の応用的な研究を措定する</p> <p>第 8 回：研究内容の中間まとめ          ・ 研究内容の設計について報告する</p> <p>第 9 回：研究指導又は事例研究・フィールドワーク（3）作家研究          ・ 論点補強に必要な作家関連の資料分析を深化させる</p> <p>第 10 回：研究指導又は事例研究・フィールドワーク（4）作品技法研究          ・ 作品制作と併行し論点補強に必要な作品技法の分析と総括</p> <p>第 11 回：プレゼンテーションの作成（1）          ・ 情報機器等を活用しプレゼンテーションの準備をおこなう</p> <p>第 12 回：プレゼンテーションの作成（2）          ・ レジユメの整理する</p> <p>第 13 回：中間報告のリハーサル          ・ 情報機器等を活用しプレゼンテーションをおこなう</p> <p>第 14 回：中間報告会          ・ 院生の運営のもとで、中間報告会を開催し、相互評価を得る</p> <p>第 15 回：事後反省          ・ 報告で得られた課題をもとに修了研究のまとめていく</p>
【教材・教科書】	特に指定しない。プリント・作品集・スライドなど、授業毎に資料を提示する。
【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001 年。その他、随時紹介する。

【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	論文，書籍の資料収集や絵画、現代美術の研究を日頃から積極的におこなう。
【成績評価の方法】	課題設定の着眼点や課題解決の手立て、課題にたいする成果など、提出された資料をもとに到達目標に照らして評価する。その他、研究への姿勢、出席状況も加味しながら総合的に評価する。 (課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%)
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12:10～12:50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	課題発表の前に指導教員へ課題資料を提出すること。
【その他】	特になし。

【開講年度】	2010 年度（大学院）
【科目】	専門演習 II
【担当教員】	渡邊 晃一
【授業概要とねらい】	<p>・<b>授業の概要</b>          主指導教員のもとで、研究計画や地域の課題などの追究を経て決定した修了研究を、美術制作学、美術科教育の視点をふまえ深化させる。主たる内容は絵画領域の特性に応じた文献講読や事例研究、フィールドワークとし、他領域との研究交流を行うことにより、他領域との連関の可能性を探りながら「コーディネート力」の伸長を期す。また「修了（研究）発表会」に向けて、それまでの研究を整理し、より広範な理解を得られるようプレゼンテーションを構築する。</p> <p>・<b>授業の到達目標及びテーマ</b>          美術制作学、美術科教育の視点から、絵画および現代美術に関するテーマに基づく研究の最終的なまとめ。修了（研究）発表会の組み立て、高度専門職業人としての自覚を獲得する。</p>
【望ましい水準】	1 修了研究を深化させる方策が適切である。 2 文献、事例研究、フィールドワークを有効に活用できる 3 研究を深化させ、まとめあげることができる。
【授業計画】	<p>本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている。</p> <p>第1回：絵画領域における修了研究の進捗状況の確認，課題の確認          研究テーマ及び修了研究方法の確認と追究</p> <p>第2回：修了研究のまとめの構想          地域貢献や教育普及等の一般化をめざし、研究の方向を計画する</p> <p>第3回：修士論文または作品研究報告書の作成（1）構成の確認          修了研究の社会還元を目標に、論文の資料を活かした研究へ展開</p> <p>第4回：修士論文または作品研究報告書の作成（2）構成の修正          修了研究を作品発表に結びつけることを目標に絵画研究を行う</p> <p>第5回 学際的研究と研究交流（1）領域内交流          美学、美術史、博物館学など、専攻領域内の交流と連携を展開</p> <p>第6回 学際的研究と研究交流（2）専攻内交流          音楽、舞台学、教科教育学など、諸領域との幅広い交流を展開</p> <p>第7回 学際的研究と研究交流（3）専攻外交流          心理学、政策学、表象文化論など、諸研究領域との交流を展開</p> <p>第8回：修士論文または作品研究報告書の作成（1）文章の執筆          研究成果と今後の見通しを考え、論文の執筆を行なう</p> <p>第9回：修士論文または作品研究報告書の作成（2）文章の執筆          全体を俯瞰したレジュメの作成とプレゼンテーションの方法を考察</p> <p>第10回：修士論文または作品研究報告書の作成（3）参考資料の作成          参考資料を整理し、修了研究の論理を構築する</p> <p>第11回：修士論文または作品研究報告書の作成（4）文章の校正          情報機器を活用したプレゼンテーションの作成</p> <p>第12回：修士論文または作品研究報告書の作成（5）文章の確認          プレゼンテーション資料の整理と時間設定</p> <p>第13回：修士論文または作品研究報告書の第一次完成          中間報告反省を活かしたプレゼンテーションを構想する</p> <p>第14回：プレゼンテーション          修了研究報告。口頭試問を通し、課題を今後の研究に資する          修了制作は展覧会とし別日程とする</p> <p>第15回：発表          まとめ。美術領域における高度専門職業人として将来の見通しの報告をし、          課題を今後の職業人としての活動の中で解決する</p>
【教材・教科書】	特に指定しない。

【参考図書】	『絵画の教科書』日本文教出版、2001年 その他、講義内において随時紹介する。
【参考URL】	<a href="http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html">http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~koichiw/asca/asca_index.html</a>
【授業以外の学習】	論文、書籍の資料収集や彫刻作品の研究等を日頃から積極的におこなうこと 修了研究を社会還元することを念頭に社会の動きに幅広く目を向けること
【成績評価の方法】	課題にたいする研究成果、報告書、報告会の成績、その他、研究への姿勢、出席状況も 加味しながら総合的に評価する。 (課題提出40%、毎時の報告30%、出席状況30%)
【成績評価の基準】	優：望ましい水準すべてにおいて非常に優れている。 良：望ましい水準すべてにおいて優れている。 可：望ましい水準のすべてを満たしている。 不可：望ましい水準に達していない項目がある。
【オフィスアワー】	金曜日 12:10～12:50 この時間以外の来室は事前に連絡を取ることが望ましい。
【連絡先メールアドレス・電話番号】	連絡方法等は第1回の講義時に指示する。
【留意点・注意事項】	課題発表の前に指導教員へ課題資料を提出すること。
【その他】	特になし。